

明 渡 し
 静 聴
 靈 交
 献 身
 奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

祈 禱 生 活

Japan United Christian Ashrams. 夏季号

発行所
 東京都中野区
 江原町3-19-12
 江古田教会気付

編集人
 海老沢 宣 道

発行人
 高瀬 恒 徳

定価1部 30円

主イエスによる

十二使徒の訓練

谷 本 清

マルコ福音書三章十三節以下によると、主イエスはガリラヤ湖畔で多くの病人を医されてから、山に登られた。そして御心になつた者たちを呼び集められたとある。これは神の国運動を進めるためにも、ある一定の協力者が必要であつて、徒らに多いだけがよいというものでないことを示している。

そこで主イエスによって選ばれる者といふことが起つてくる。私たちが御心になつて選ばれる者でありたい。その時みもとに集まつた人たちは何人であつたかは記されていないが、少くとも数十名はいたであらう。

そこで主イエスは更に十二名を選んでおられる。すでに五人は弟子に数えられていたから、それに七名を新しく加えたわけである。十二名といふ数はイスラエル民族の支族の数でもあり、主イエスはこの十二支族に自分の弟子を一人一人使徒として派遣するお考えがあつたものと思われる。従つて初

代教会は主の十二使徒を非常に尊重していたのである。

主イエスが十二使徒を選定された目的は何であつたか。第一に、御自分のそばに置くためとあるが、これは世俗の職業を捨て、主と共に生活して実地訓練を受けさせるためであつた。ここにアシュラムが行われていることを見るのである。主イエスによって心身の病気を医された者は、喜びと感謝をもつて、証しのために立つべきであるが、世俗の仕事に追われながらの伝道には、今一つという力の不足を感じないわけにはいかない。

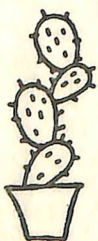
全き服従と献身の生活が最高に望まれるわけである。四六時中、寝食を共にし、公私の生活の別なく交わる中で、耳や目からだけでなく、体で学ぶ修道の生活をすることは、主の弟子たちにとって不可欠のものであつた。今日私たちは様々なこの世の事に妨げられているが、努めてそれらを排除して、直接主イエス御自身との交わりの

生活を保つべきである。アシュラムはその事を大いに助けてくれる道であると信じる。

第二の目的は宣教につかかわすためであると書かれている。伝道に出かける場合、信徒の証しには多様な性質があるうけれども、神の恵みの本質を正しく理解していることが基礎になっていなければならぬ。そうでなければ、主イエスの愛の福音が宣教されないからである。そのためにも主と共に生活する必要があるのである。

第三の目的は、悪霊追放の權威を持たせるためである。すべての病源は悪霊のわざによる。罪は心の病である。これらの悪霊は主イエスの聖霊によらずしては追放することができない。従つて主と共に生きることはその力を身につけることはできない。そのために主と共に生活することは不可欠の重要なことである。アシュラムはこの体験を現代において実験する道の一つである。

(文責在記者)



アシュラムに接して (二)

山 根 可 式

(三) 聖霊の啓導と充満

キリスト者の生涯は聖霊の啓導の中にあり啓導に従うとき聖霊は充満される。啓導は私的生活から公的生涯へ、そして十字架の道を通ってキリストとの一致に進められる。これは私の受けた啓導である。

聖霊によって新生した私へ、第一の啓導は職場や家庭、友人間の贖償からであった。そして、良心からくる懺悔と、ザアカイ(ルカ一九ノ八)のように、主との靈交によって起る悔い改めの生涯の相違を学び、啓導は主にある畏敬の中に神の愛と自由を知った。だが啓導は従わないと、次に受ける啓導は次第に不明瞭になり、神を軽視したことを知った。

ある日、最も苦手の上役で、しかも問題の人物へ懺悔に行き和解するように導かれた。私の心は喜ばなかった。あだかも敵陣へ切り込むようなものである。しかし、

後援隊のように妻に励まされ、祈って従ったときに愛が湧き力が出て、上役との隔てはとり去られ職場の空気が変わり良くなった。その後間もなく私は朝鮮の浮浪児救済のために、役所を罷めることになった。職場が嫌だからやめたいと思う時主は許されない。神から与えられた使命が済んだら、留りたくても主は次の御計画の働き場へ任命せられる。私達は主の全権大使である啓導は十字架を忘れると判らなくなる。自分の能力を信じてるとき失敗。無能と弱き愚鈍を知り神に一切を明け渡したとき、「世の愚者、無きが如きを主は選ばれる」との言葉は事実で、たしかにそのとおり、御霊はそこに充満せられ、その結果、大胆な確信と働きになり、活ける主の立証となった。

私は文学通り幾度か主のため人のために無一物になり、愛の故に人に言えない多額の借金までさせられ、また父母妻子兄弟姉妹、自

分の命まで主は要求された。しかし、そこに世人の知らない大きな、永遠の財産を発見した、いうまでもなく活ける神御自身である。そして、神は神にあるすべてを与えようとせられる。だが、人間はいつも神の御旨以下、自分の欲するところを神に要求する。また、神の中に満ち満ちている恵みを求めようとしない。聖霊充満の妨害をここに見せられた。

霊的成長をしないキリスト者、また、進歩のない教会は、聖霊の啓導と充満をどのように受けとっているか熟慮する必要がある。私自身についてもそうである。また、啓導と充満は主にありて常に永遠の視野に導かれる。

(四) 教会への奉仕と伝道

使徒行伝を学ぶと、初代教会は家族的で奉仕も伝道も自然で、いっさいの物まで共有し家族的な愛の助け合いが見られる。本当の共産主義はここから学んだのではないかと思う。もっと温い家族的な教会をとほ、よく聞く言葉である。アシュラムこそその要求に答え得ると私は思う。時折もつ小集會に於て体得し、家庭に教会を持ち帰るだけでなく。「イエスは主なり」

とのことばどおり、教団も教派も超え各自の職場も主の使命に従い、主のみからだである教会への奉仕と伝道によって、全日本、全世界が一つの大家族になろうとしている、否なりつつあるのである。しかも理想でなく事実である。これらのことに對する質疑もあろう、個人的にお交りできる日を祈る。

次に古い話であるが、私の平信徒時代の奉仕と伝道の証しを記憶のまま記して見る。牧師のうちに見える愛の労苦と、教会の微温に、主のからだである一員として、自ら責められ主の御前に伏して静聴した。主の御答は、まず「牧師と早天の祈りを始めよ」であった。怠慢と冷酷を謝罪したとき、魂に愛の渇きが起った。風雨の日も雪の朝も六時半に、五十分の道を毎日欠かさず出勤前に教会へ行き、ときには老牧師を起して共に祈った。そのうちに二人三人と参加者ができ、一年未滿に私を中心として、求道者が次々に起り、私の家で家庭集會を開くようになり、牧師を迎えて二十人近い集りを毎週もつようになって、クリスマスには十人の受洗者ができ、教会の中も一変し、良い奉仕者もできた。

アシュラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し
(二) 聖霊の啓導と立証
(三) 福音の傳布と立証

私人の奉仕では限度があるが、チームを作り奉仕者を作る奉仕こそ最善の奉仕ではなかったかと思う。しかし、その発足は静聴と明け渡しであった。

あまりに話がうますぎるように思う人があるだろうが、背後に静聴と十字架をいつも共にする同志の祈りと奉仕があった。伝道には大衆伝道と個人伝道、文書伝道、電波伝道などあり、いずれも特徴があり大切である。一枚のトラックから奇跡も起る。しかし、主イエスは「聖霊があなたの上に臨まれるとき、力を受け地の果てまで、わたしの証人となる。行って福音を伝えよ」といわれた。キリスト者といわれる人がキリストの証人とならなければ、伝道の第一歩から失敗はあり得る。このことを知る人の中には、いつも渴きがあり主のもとに近づき、生ける水の川が流れ出るように清い奉仕と伝道が自然につづく。アシラムは理想をかかげることもなく、古い証しをならべることでもなく、御言が自然の生活となり、日々の交わりがわかち合いとなつて、いつも「イエスは主となつて」おられることである。

カナダの霊的指導者

ゴルドン・ハンター師来る

今秋八地区でアシラム

日本アシラム連盟は、昨年度各地区ともになれら自身の中からリーダーを求めてアシラムを開催してきたが、今秋には海外のリーダーを迎えて、新鮮な靈気に浴したいとの願いから、米国の連盟と人選について協議を重ねてきた。その結果カナダにおいてアシラムのよい働きをしているゴルドン・ハンター師を迎えることになった。同師は若い時からその有能を広く認められ、今や最も働き盛りの壮年で、ジョーンズ博士の感化を受け、カナダの各地にアシラム運動を推進、指導されている靈の賜物を豊かに与えられている人物である。

わが国には初めて渡来されるが、神学生時代、米国で奥興牧師(三軒茶屋教会)と机を並べて勉強した間柄で親交が深い。また中路嶋雄牧師(大阪扇町教会)が昨年六月エルサレムの世界アシラム大会に出席した時、またカナダを訪問した時に面談したことがあり、その人物をよく知っておられる。この度の人選には両牧師の推薦があったことを付記しておく。

◇ 八地区の日程 (予定)

- 九月二三日(日) 東京歓迎信徒大会
- 二四日(月) 九州アシラム
- 二五日(火) 委員長 山本繁夫
- 二六日(水) (西南学院・山の家)
- 二七日(木) 四国アシラム
- 二八日(金) 委員長 宇都宮充
- 二九日(土) (松山市済美会館)
- 三〇日(日) 朝拝(松山)
- 同 夕拝(広島)
- 十月 一日(月) 中国アシラム
- 二日(火) 委員長 谷本清
- 三日(水) (広島市)
- 四日(木) 関西アシラム
- 五日(金) 委員長 中路嶋雄
- 六日(土) (大阪シオン・ロッジ)
- 七日(日) 朝拝(大阪)
- 同 夕拝(東京)
- 八日(月) 関東アシラム



- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

- 九日(火) 委員長 横田義孝
- 十日(水) (青梅・福音の家)
- 十一日(木) 中部アシラム
- 十二日(金) 委員長 原田定男
- 十三日(土) (雀のお宿)
- 十四日(日) 朝拝(名古屋)
- 同 夕拝
- 十五日(月) 東北アシラム
- 十六日(火) 委員長 村上東
- 十七日(水) (秋田市)
- 十八日(木) 道南アシラム
- 十九日(金) 委員長 白川鄭二
- 二十日(土) (函館湯ノ川)

以上は仮日程であつて、ハンター師及び現地の都合などによって変更されることもあろう。各地の参加希望者の皆さんは、その地区の最終的に決定した案内パンフレットによつて、予定を立てて申込まれるようお願いする。

最新刊

スタンレー述、海老沢訳
一日アシラムの守り方 (30円)

各個教会単位で開く時の参考書参加者一同に必読願いたい文書

アシラムとは何か (30円)
地区アシラムの手引 (50円)

どちらも残部僅少
JUCAシリーズは、以下続刊

全国ファミリーの祈りを

今秋の全国八地区アシユラムのため
にまず第一に必要なことは、全国の参
加者一同がファミリー(神の家族)意
識をもって相互のため、よき準備のた
め主イエスに向って熱い祈りを捧げ続
けることではないか。

できれば各地ともそれまでに、近隣
の同志がミニ・アシユラムを開かれて
御言に聴き、なすべきことを示される
ならば、今秋は全国的に大いなる恵み
の雨を受けることとなるであろう。

各地区への参加者の殺到すること、
全ての必要が天の力によって満たされ
ること、よい通訳者が与えられて、御
言の力が言葉のかべをつき破って、一
同の心に突入してくることを、今から
祈って頂きたい。

地方ニュース

ジョーンズ博士記念信徒大会

松山で六月二四日(日)

今秋ゴールドン・ハンター師を迎えて
全国的にアシユラムの開催されるに先
立ち、四国地区委員会は五月中旬に二回
協議の結果、九月下旬全四国アシユラ
ムの開催を決定、来る六月二四日(日)
午後二時―五時半に松山市で、ジョー
ンズ博士記念信徒大会をアシユラム様
式で開催、秋の本番アシユラムの準備
博士記念事業への協力方法などについ
て相談することとなり、連盟から高瀬

理事長が出席「博士の信仰に学ぶ」と
題し講演をする予定。

原町田一日アシユラム

去五月三日開かる

町田市原町田教会(花岡政吉牧師)
を会場に、代官山教会の中村武牧師(関
東アシユラム委員)と東京ガリラヤ
の集い(世話人田辺稔氏)の協力によ
って、去三日午前九時から夕五時まで
開催、三〇教会から七〇名が参加。教
団以外の多くの教会が参加したことも
特色。各自が不誠実の罪を示され静か
に砕かれたことを一同感謝、東京城南
地区にこれが中核となつて、各教会に
アシユラム精神が浸透することを祈る。

ジョーンズ博士記念事業

全国のアシユラムの友に訴える。

世界アシユラムのグル(指導者)で
あった兄弟スタンレー・ジョーンズは
インドと共に日本を愛し、戦後十回も
来日、全国を伝道旅行され、アシユラ
ムを開き、われらに祈禱生活の真実を
教えて下さったが、去一月ついに八十
九才で召天された。

博士に対する感謝を表したいとの願
いが、各地に起り、米国の連盟は博士
が生前から希望されていた事業を記念
として完成することにありと判断、左
の通り三種の計画(計六〇万ドル)を
発表している。

わが日本アシユラム連盟としても博
士が来日された時に直接その御希望を
伺っていたことを思い起し、ぜひとも
この記念事業に協力いたし度と考え、
全国の兄弟に訴える次第である。

(計画の一) ガリラヤ湖畔に世
界アシユラム・センターの建設。

場所はガリラヤ湖の西岸で、テベリ
アスからカペナウムや垂訓の山へ向っ
て北へ約二哩ほどにあるペニエルであ
る。自然の環境が聖地巡礼者にとって
も、小さなグループ集会をするのにも
極めて理想的な所である。

兄弟スタンレーは十年前にここに目
をつけ、牧師、信徒、学生たちが数日
或は一ヶ月の瞑想と祈りと聖書研究と
に過すために、よい場所を備えたいと
願っておられた。国際YMCAの協力
により既にチャペル、食堂、事務室は
利用できるようになっていた。われら
はそこにアシユラムの友のため宿泊室
と集会室とを建設したい。このために
三〇万ドルが計上されている。

(計画の二) 未開地へのアシユ
ラム運動促進費(二五万ドル)

現在アシユラムは米国において毎夏
三十地区で開かれ六千人が出席してい
る。今年は今州で開く計画とか。海外
ではスエデン、フィンランド、ドイツ
、英国、インド、日本、メキシコで回を
重ね、南米とカリビヤ地区は最近初め
て開かれた。アフリカや南米各国その

他にも指導者を送り運動を促進するこ
とが、兄弟スタンレーの遺志を継ぐこ
とである。

(計画の三) サト・タル・セン
ターの食堂とクララ・スウエイ
ン病院の手術室の増築。

サト・タル(七湖)とはインドのヒ
マラヤ山脈の間にあり、世界最初のク
リスチャン・アシユラムが兄弟スタン
レーとインド人牧師と英人引退宣教師
の三人が集まって初めて守られた所で、
毎年インドの青年が長期アシユラムを
生活している所。茲に食堂を建造する。
クララ・スウエイン病院は兄弟スタ
ンレーがインド滞在中しばしば入院し
昨年、聖地で世界大会(第一回)を開
催された前後にも静養され、今年一月
にも入院し、そこから帰天された所。
ここに手術室を建造したい博士の願い
を実現するために五万ドルを計上。

日本アシユラムの祈り

われらは以上の計画が博士を記念す
る最上の方法と信じ、僅少乍ら最低一
万ドル(二七〇万円)を日本に於て来る
二年間に献げる事にした。同志はよろ
しく年一回或は夏冬二回の特別献金を、
この二年間に実行される様に期待する。
▲送金方法 最も確実安全なのは振
替東京五〇二五九(名義日本基督教団
江古田教会)へ「ジョーンズ博士記念
献金」と明記の上払込まれることであ
る。